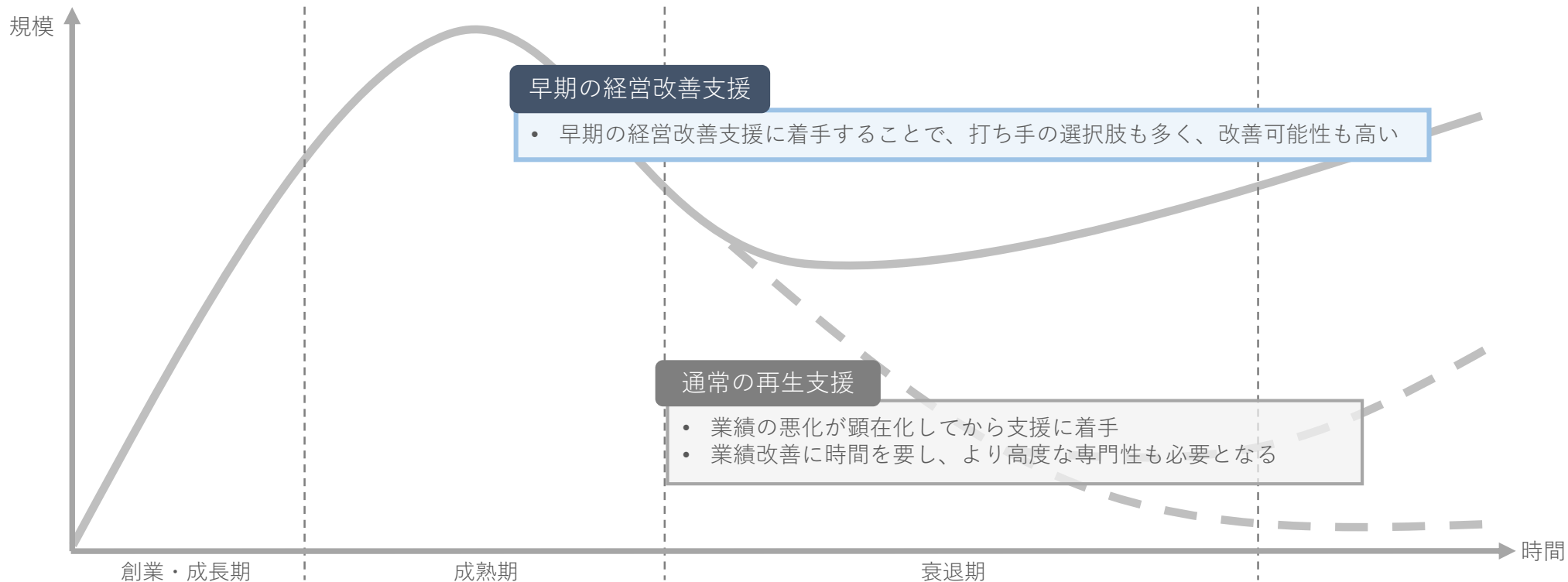


AIやICT技術を活用した経営改善支援の効率化に向けた調査・研究の背景・目的

- 新型コロナウイルス感染症や物価高等の影響もあり、経営改善支援を必要とする事業者は多い。
- そのため、金融庁において地域金融機関の事業者支援能力の向上を後押しするため、AI技術を活用して、担当先それぞれが抱える課題に応じた優先順位付けを行う仕組みの構築等に向けた調査・研究を実施することとした。

※本取組みは[あずさ監査法人を委託先とする委託調査事業（「AIやICT技術を活用した経営改善支援の効率化に向けた調査・研究」）](#)として実施。



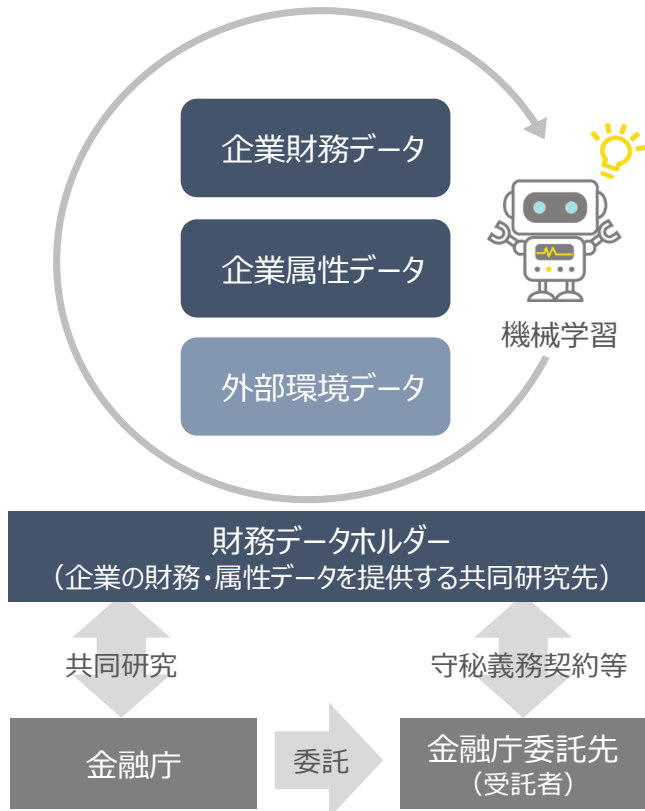
本調査・研究のモデル構築イメージ

- 本調査・研究におけるモデル構築のイメージは以下のとおり。
- 本年度は「**経営改善の必要性が高いと考えられる先を早期に発見すること**」及び「**現状は業績が悪いが経営改善の可能性が高い先を発見すること**」をコンセプトにモデルを構築し、支援先の優先順位付けに役立てる。

※本調査・研究の結果、構築した汎用的なモデルの配布申請については、以下ページ参照。

URL：<https://www.fsa.go.jp/policy/chuukai/index.html#ai>

① AIモデルの構築（プロトタイプ）



② データのインプット



③ 結果のアウトプット（経営改善支援先の優先順位付け）

NO	企業名	地域	業種	ポイント
1	●●工業（株）	〇〇県〇〇市	製造業	12
2	（株）△△食品	△△県〇〇市	製造業	25
3	（有）■ ■ 工芸	〇〇県△△市	製造業	33
4	（株）〇〇商店	□□県△△市	小売業	64

（例）金融機関では、現状業況に問題がない先と認識していたが、ポイントが高いため、経営者と業況等について早期に対話

- 経営改善支援の実務へ結び付けるため、汎用的なモデルを構築後、一部の金融機関の協力を得て、実証実験・ワークショップを実施したところ、各金融機関における経営改善支援先の優先順位付けが、**より効果的・効率的に行えるようになる可能性が示唆**された。

AIモデルの構築

- 「経営改善の必要性が高いと考えられる先を早期に発見すること」及び、「現状の業績は悪いが経営改善の可能性が高い先を発見すること」をコンセプトにモデルを構築

金融機関による実証実験

- 一部の金融機関の協力を得て、実際の金融機関のデータを用いたモデルの検証を実施
- 個別金融機関のデータにおいても、汎用的なモデルは一定の精度を得られたが、それぞれの機関のデータに基づく個別のモデルでは、より高い精度を得られた

金融機関向けワークショップ

- 金融機関における現行業務の課題例
 - 支援先の選定は現場担当者の主観となっている
 - 選定は最後は人の目で実施するため、相応の時間がかかり、網羅性がないことも
- モデルを活用することによる業務改善の可能性
 - 支援先を選定する際に、担当者ごとの目線のバラつきを抑えることができる
 - 全取引先の中から支援先を選定できる
 - モデルを活用する前提として、データ利活用に向けた環境整備が不可欠